松ケ崎社協だより

発行
松ケ崎社会福祉協議会
発行者
西　野　信　雄
編集責任者
芝　山　宗　昭

二十二年度活動計画が定まる

平成二十二年四月七日、松ケ崎小学校内で、松ケ崎社会福祉協議会総会が顧問や監事を含む二十二人の出席の下で開催された。

総会に先立ち、先月十一日に逝去された岩崎純一前会長の冥福を祈って黙祷をささげた。第一議案として前年度決算が岩崎洋子会計・島監事から報告され了承された。第二議案の本年度役員案が西野信雄会長から提案され、大筋で前年度を引き継ぐこととなった。

事業では、左の表に記すように、子供と老人が同時に楽しめる餅つき大会を松ケ崎児童館と共催すること、および、より多くの人に本会主催行事に参加頂けるように社協だよりを年二回発行することなどを従来事業に追加することが提案された。

下に示すように、総額二五〇万円強の予算案が提案され、事業計画案とともに承認された。

平成22年度の事業

- **4月**　総会
- **5月**　健康すこやか学級（第１回）
- **6月**　健康すこやか学級（第２回）
- **7月**　ふれあい会食会
  健康すこやか学級（第３回）
  寝具クリーニング
- **8月**
- **9月**　敬老記念品贈呈
  児童の手紙を添えて
  健康すこやか学級（第４回）
- **10月**　『社協だより』第25号発行
  敬老会
- **11月**　健康すこやか学級（第５回）
- **12月**　健康すこやか学級（第６回）
- **1月**　もちつき大会（松ケ崎児童館）
- **2月**　賛助会員募集
- **3月**　健康すこやか学級（第７回）

＊毎月　子育てサロン（松ケ崎児童館）
＊毎月随時　独居家庭訪問

平成22年度予算

収　入		支　出	
繰越金	599,563 円	敬老会費	550,000 円
自治連合会からの活動助成金	380,000 円	敬老記念品代	600,000 円
		ふれあい会食会費	250,000 円
自治連合会からの敬老記念品代	600,000 円	すこやか学級費用 子育て支援費用 訪問ネットワーク費用 クリーニング費用	300,000 円
左京区社協からの 活動助成金 すこやか学級補助 子育て支援補助 訪問ネットワーク補助 クリーニング補助	600,000 円	社協だより出版費	120,000 円
		研修会参加費	140,000 円
		会議費	40,000 円
		事務費	90,000 円
雑収入 参加者負担金、 祝い金受領など	350,000 円	雑費 祝い金など	200,000 円
		予備費	239,563 円
合 計	2,529,563 円	合 計	2,529,563 円

岩崎純一前会長を讃える

岩崎純一氏は昭和五年松ケ崎西町生まれ。スポーツ、酒、祭り、人を愛す豪放にして繊細、人情豊かな人でした。平成三年度から体育振興会四代目会長を七期務めた後、平成八年五月に本会初代会長に就任されました。十四年からは自治連合会会長を兼務、永らく地域の要になって頂きました。

平成二十年暮れ頃に体調を崩された氏は、急ぎ、当時副会長であった西野信雄氏を二十一年度会長に推薦されました。今年の一月二十八日に催された新年会で西野新会長の見事な采配を喜んで居られました。氏の訃報に接したのはその二ヶ月後でした。

松ケ崎社協役員一同は氏の献身、不断の努力をお手本にして、役員の務めを果たそうと誓うばかりです。

平成二十二年度 健康すこやか学級

松ヶ崎小学校ふれあいサロン

すこやか学級は、高齢者の知能、情操、体力をバランスよく向上させるために設けられている。知能面では、漢字や名物名所などの知識だけでなく化け字解読など頓知向上も狙っている。情操教育は図画・工作・歌唱などを、体育は玉ころがしや踊りなどを内容にしている。講師は博愛会病院労務部長兼院内保育園園長であった現会長の西野信雄氏、同園保育士の吉田さんと井栗さん。さらに、同病院の市橋看護師から時期折々の健康講話を頂ける。

以下、九月までの四回の内容を簡単に紹介する。

第一回　五月二十日

新入の女性一人を加え、十四人が出席。まず、吉田先生の弾くキーボードのメロディに乗って出欠点呼。四月・五月生まれの生徒をハッピーバースデイの歌でお祝い。午前の第一部は音楽の時間。五月に相応しい「鯉のぼり」や、「ぼけない小唄」などを歌う。

「風邪を引かずに、転ばずに、
　笑い忘れず、聞く話す、
　頭と足腰使う人、
　元気ある人、ボケマセン
　　（富士の高嶺のメロディで）」

第二部は井栗先生「京都で一番は？クイズ」。国宝が一番多い寺は？（東寺）、階段段数が一番多い地下鉄駅は？（蹴上駅）など。さんざん頭を絞らされる。

第三部の体操は「ピンポンコロコロゲーム」。テーブルの向こう側に吊り下げられた箱にピンポンを入れるのだが、テーブル上のゲートを潜らせば高得点になるため、コースをそれぞれが工夫して投げ合う。

午後は写真立て作りに挑戦。厚手のカラー紙に折り目と切り込みを入れ、各々の教室への思いを一筆書き入れて、集合写真の入った写真立てを仕上げた。

第二回　六月二十四日

梅雨の晴れ間の好天気の下、新入の男性二人、女性二人を加え、総勢二十人が出席。支援センターと区社協から三人も同席。恒例の誕生祝歌に続き、六月にちなんだ「雨」を合唱し、「蛙のうた」を輪唱する。

第二部は歴史の勉強。井栗先生の京都クイズ「新撰組の羽織メーカーは？」、「龍馬の襲われた宿の現在は？」など歴史上の話題に盛り上がる。

第三部は体育。前に置かれたたらい、雨傘、長靴めがけて紙ボールを投げ、得点を競う「ホールインワンゲーム」。

午前の最後は定例となった市橋看護師さんの健康講話を伺い、血圧を測定して貰う。

午後の第一部は逆さ時計の時刻を読んだり、三十秒を見込んで挙手し、合致度合いを測って時間経過の感覚を磨く訓練を楽しむ。二部は工作。象・蛙・犬・兎など好きな動物を選び、相応しい色合いの色紙から目・口・足などのパーツを切り出し、ボディに見立てたティッシュ空き箱に貼り付けて、可愛い動物出来上がり。

最後は健やか体操で仕上げた。

第三回　七月八日

ふれあい会食会

松ヶ崎のご高齢者には晴れ男・晴れ女が多いのでしょうか、梅雨の盛りにもかかわらず好天気に恵まれ、三十七名の参加者、二十三名の役員、四名の区社協職員がアピカルインに集まられた。

西野会長の開会挨拶に続いて、蓑田きよみ看護師長さんから、「幸せ脳の作り方」と題して講演を頂いた。

講師は京都博愛会病院の回復リハビリ病棟で患者の回復意欲を高める精神面の指導に力を入れておられるためか、個々人の精神状態の分析から話に入り、明るい幸せな感情が免疫力を高めるメ

カニズムを詳しく話された。また、感謝の気持ちを「ありがとう」と口にするだけで、脳は良いことを優先的に覚える癖が付く「幸せ脳」になって行く事例を紹介された。

講師自身が、先輩・同僚などに恵まれて幸せ脳を作って居られ、さらに患者と共に幸せになって行きたいと願って居られる様子が印象的でした。

午後の部は区社協の職員さんによる悪徳商法の寸劇。健康飲料サンプルを試飲させ、多量のサンプルを置いて帰り、日にちを経過させて、返品しにくい気持ちに追い込んでゆく手口が見事に再現されていた。情報交換や相談できる隣人・友人・親戚の重要性が強調された。

第四回　九月十七日

夏を越して久々の学級です。まず、七、八、九月生まれの方々をハッピーバースディの歌でお祝いする。第一部音楽の時間では、秋に相応しく懐かしの童謡、「虫の声、証城寺の狸ばやし、夕焼け小焼け」、をうたう。ちょっとモダンな「やぎさん郵便」の歌にも挑戦する。

第二部は西野先生の「化け字解読」。途切れた「あ」、突き抜けのない「め」などの単漢字を生徒は次々と解読するものの、「登・底・松の三字が正しい向き・横向き・逆さ向きで組み合わせられたもの」にはお手上げ。先生から正解を聞いて、生徒・役員は大笑い。

第三部は井栗先生の京都クイズ、テーマは食べ物。東寺のお坊さんのために作られたオヤツは？ 市内名所喫茶店五店の名物菓子は？ など。回答者は女性陣に占められる。

第四部、京都の次は世界に羽ばたく漢字問題。吉田先生が出題する「加奈陀」・「比律賓」など十余の国名は音の似通った漢字が充てられている為か、本学の優秀な生徒によって即時に解答される。しかし、英国の都市名「牛津」・「剣橋」には降参。原語が二つのパーツに分けられ、音の似た漢字や意味の似た漢字に置き換えられていたとは露知らず――。

午後の授業は「着せ替え人形」。吉田、井栗両先生が用意した人型の厚紙、色とりどりの上着・ズボン・スカートの中から好みの物を取る。生徒は洋服か和服か、正統派かファッショナブルかなどデザインし、ボタン・ポケット・襟・バンドなどを作って付け足す。男性陣も大奮闘。

あまりに出来栄えが良いので、十月二十日の敬老会で展示されることになりました。

事業解説のコーナー
寝具クリーニングサービス

良質の睡眠に清潔な寝具は不可欠です。お天気の日には布団や毛布の天日干しや季節の変り目には布団カバーや毛布の洗濯をしたいものですが、高齢者の手ではナカナカ。玄関先受け渡しクリーニングは布団・毛布一式で数千円の支出となり、億劫なものです。

清潔な寝具を通じて高齢者の健康増進を図るべく設けられたクリーニング費用補助制度を利用して、松ケ崎社協では梅雨終了時期に寝具クリーニングサービスを行っています。手順は次の通り。

六月上旬に実施日や自己負担金額を記した〝お知らせ〟を回覧する。十一に小分けされた区域を担当する十一人の民生委員が利用品目・数量・自己負担金を月末〆で受付ける。本件担当役員は申込者の家を地図に書き込み、収集順路を定める。実施当日の八時、きんこん館を基点に西向け・反時計廻りに業者の車で収集開始、十時半に終了。業者は南区まで寝具を持ち帰り、クリーニング・繕い・ビニール袋詰めを済ませて夕方に再配達。今年は三十人から百枚の申込みがあり、車から溢れそうなほどでした。

なお、従来のサービス対象は独居高齢者であったが、来年からは独立生計が難しそうな「高齢者と子の同居家庭」や「障害者の居る家庭」を含めるように変更する。利用者増には、学区を二分し、二日を費やすことで対応する。自己負担金は布団上下各六百円、毛布三百円の予定。

学区内ボランティアの活動紹介

①松ケ崎消防分団

松ケ崎社協は役員の多くが民生児童委員や老人福祉委員を兼ねており、弱者救済（セーフティネット補完）に多少お役に立っていると思いつつも、孤立しがちな高齢者や悩みを抱えた親子への働きかけが不十分だなと反省頻りの昨今です。

ご承知と思いますが、学区内には地域を安全で住み良い町にすることを願って多くの団体があります。小学校・立正会・寺・神社は文化面で、児童館・社協・おやじの会・少年補導委は保護育成面で、消防団・自主防災会・交通安全委・防犯推進委は安全面で、体育振興会（体振）は健康面で、農協・水役は環境面で、松寿会はコミュニケーション面で、自治連合会・市政協力委員会は諸団体の連携支援面で活動されています。

これらの団体と連携・協力して社協活動の弱点を克服しようとする共通認識が社協内部に出てきました。手始めに、体振主催の夏祭り行事に受付役として参加、区民体育大会では売店を運営しました。社協だよりで地域の楽しい催しを紹介することも始めることにいたしました。

本報では松ケ崎消防分団の活動の一端を紹介いたします。

地震などの大規模災害時には、消火・救命作業の一端を担うための技術や装備が消防団に与えられているものの、通常時の災害予防・災害対策（消火・救命）は京都市消防署の仕事です。消防団は消防署の活動支援（災害発生現場への道案内・現場の交通整理・現場の保存）および予防広報活動を行うと定められている。

松ケ崎消防分団は藤井照夫分団長など二十六名で構成され、職業は映像機器・交通システム・金融システム技術者、植木・染色職人、食品・自動車販売店経営者など多岐に亘っている。年齢も二十八歳から六十八歳と幅広い。学区外勤務者が多いため、ウィークディ昼間の出動は区内自営業や定年退職後の団員数名が対応中。

予防広報活動は毎月五日と二十日の夜、四グループに分かれての学区内巡回が基本。火災・災害・交通事故の通報があればその種類や規模に応じて三人あるいは全員が現場に駆けつける。誤報や発煙程度の火災に対する小規模出動は月に二～四回、火災や水害への大規模出動は年に一～三回である。

平常時にはボランティア活動も行っている。神社や寺で行われるお火焚き・秋祭りの稚児行列・夏祭り・区民体育祭などの行事の警備に三名単位で年間十回余出動している。写真は区民運動会場での交通整理である。

全員が出動する大規模な奉仕活動は妙法送り火警備と水路清掃である。残暑厳しい九月の第一日曜九時、宝が池公園スポーツ広場南沿い水路および井出ケ鼻水門に出向き、水役や水利組合長と連携しながら、草刈や泥上げを行う。第二、第三の写真は清掃作業中および作業前後の水路遠景である。

松ケ崎学区は美しい山や川に恵まれるだけでなく、日蓮宗に導かれた旧松ケ崎村民の共同体意識・郷土愛が昭和以降の新しい住民にも影響したのか、郷土愛の強い土地柄である。松ケ崎小学校の在校生・卒業生を持つ男親の活動的な層が〝おやじの会〟を結成されたのも郷土愛の顕われとなるが、近年、そのかなりの部分が消防団に入団された。

ボランティア活動が住み良い町を作り、それが郷土愛を高め、さらに新しいボランティアを生む良い循環が出来たことは喜ばしい限りである。

松ケ崎社会福祉協議会よりのお願い

（できる事を・できる時に・できる人が）

一芸ボランティアさん募集！

地域の高齢者の方々と楽しいひとときを過ごすために「健康すこやか学級」「ふれあい会食会」「敬老会」などの行事を一緒にお手伝いして頂ける方を募集しています。（歌・手芸・体操・各楽器・イラスト・パソコン など）

～参加される高齢者にやさしく指導や披露して頂ける方～

会長 西野までご連絡下さい。

（電話・FAX 722－6278）

岩崎純一会長を偲ぶ歌

林 久雄 詩

一、小高い丘に描かれし
妙と法を守りつつ
里の栄をねがいつつ
村人の心よ ひとつにと
心配りし
君が逝く

二、健やかな体づくりを
目指すため
体育振興 社会福祉の
集いを立ち上げ
里人の幸せ 育てし
君が逝く

三、心から人を信じて
明るくて豪快にして
決断する
君の築きし功績は
いついつまでも この里に
心に刻まれ
残りゆく

▽編集委員△
芝山宗昭
林 久雄
村上弘子
中川美祢子
梅原慈子